

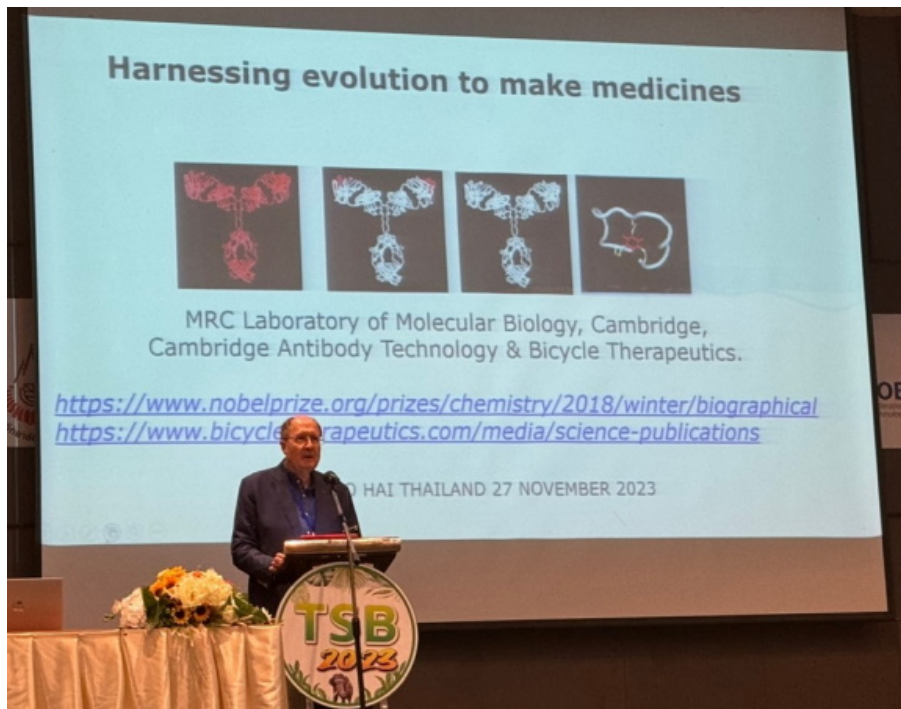
熊田 陽一（京都工芸繊維大学）

2023年11月26日（日）～29日（水）の日程で第35回タイ生物工学会年次大会（Annual Meeting of the Thai Society for Biotechnology and International Conference, TSB2023）がバンコク郊外のKao Yai National ParkにあるThe Greenery Resort Khao Yaiで開催された。今年のメインテーマは“Sustainable Development through Bio-Circular Green (BCG) Economy Model”と題され、サブテーマとして“Industrial Biotechnology”, “Health & Wellness”, “Agricultural and Food Biotechnology”, “General Biotechnology”, “Future Biotechnologist Presentations”が掲げられていた。日本生物工学会（SBJ）はTSBと2023年より学術交流協定を交わしており、SBJからは筆者が招待された。



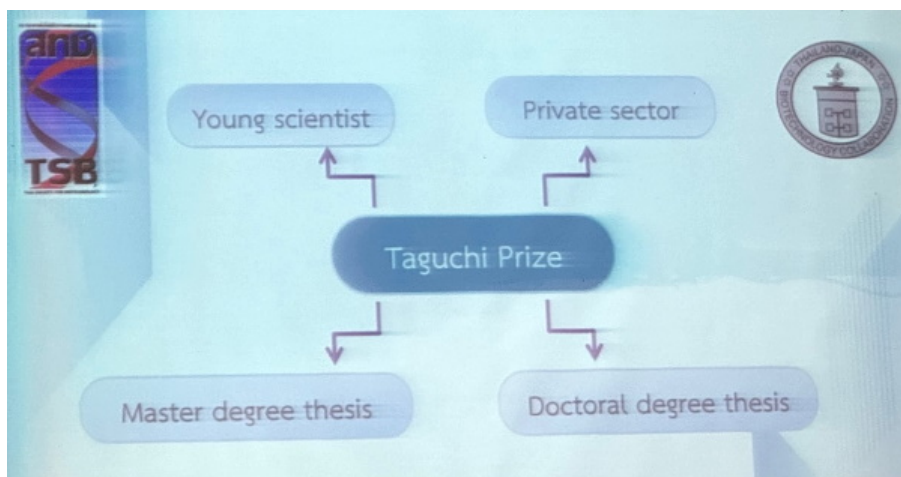
TSB2023会場の様子

Opening ceremonyでは、TSB会長のChuenchit Boonchird教授（Mahidol University）からTSBならびに参加者の発展とSustainable Development Goals（SDGs）へ貢献を願う旨の挨拶があった。Plenary Lectureでは、2018年ノーベル化学賞受賞者のProf. Sir Gregory Winterをはじめ、4名の著名な研究者が講演を行った。



2018年ノーベル化学賞受賞 Gregory Winter博士のご講演

Taguchi Prize¹⁾ PresentationにおいてはYoung Scientist, Private Sector, Master Degree Thesis, Doctoral Degree Thesisという4つのカテゴリーにおいて次代を担う4名の受賞者が発表され、受賞講演を行った。



Taguchi Prizeの紹介

各国からの招待講演者の講演は、各々の講演内容にあったセッションに割り振られる形で講演をし、筆者はGeneral BiotechnologyのセッションにおいてKeynote Lectureを行い、Chuenchit教授とSession Chairも務めさせていただいた。また、各々のセッションの中で活発な質疑応答がなされた。



講演後に
Chuenchit会長（左）と筆者

最後に、TSB2023への参加をご支援いただいた日本生物工学会関西支部、ならびにTSBの大会実行委員の先生方に厚く御礼申し上げます。また、今回このような派遣の機会をいただきました中野秀雄先生（国際展開担当理事）および藤山和仁先生（前国際展開担当理事）に心より御礼申し上げます。

¹⁾ 田口久治先生（本会第7代会長）のタイにおけるバイオテクノロジーの教育と振興への多大な貢献を記念して創設された賞。1990年よりタイの研究者に授与されている。

[⇒国際交流Topへ](#)